

直腸肛門機能検査のタスクシフト/シェアによる病院全体での業務効率化の報告 第1報

◎中岳 慎太郎¹⁾、上江洲 安弘¹⁾、仕垣 幸太郎¹⁾
医療法人おもと会 大浜第一病院¹⁾

【はじめに】厚生労働省は医師の長時間労働の是正のために「医師の働き方改革」を推進している。この政策の一つであるタスクシフト/シェアは、各職種でも対応できる業務が仕分けされ、我々臨床検査技師は医師等からの業務移管で10行為が追加・実施可能となった。当院では2024年5月より生理検査科でも直腸肛門機能検査の一部を行うことになった。直腸肛門機能検査の導入までの取組みや移行してからの状況について報告する。

【検査体制】直腸肛門機能検査の中で肛門内圧検査、直腸感覚検査を行うにあたり、研修期間は約4ヶ月にわたり業務の合間に肛門外科担当医師・看護師より検査手技の実技指導を受けた。検査スペースは移行前より検査を行っていた診察室に出向くことになった。検査は原則予約制とし第2・第4木曜午後の6枠(1枠30分)、合計月12枠を設定した。検査は可能な限り女性スタッフが担当することとし、検査室内はプライバシーに配慮した環境を整えた。

【検査実績・有効性】移行してからの肛門内圧検査、直

腸感覚検査の検査数(2024年5月～2025年4月)は全109件(月平均9件)実施した。移行直後は30分1枠いっぱい使用し検査を施行していたが、慣れてくると約15分で検査を終えるようになった。以前は直腸肛門機能検査が律速段階となり肛門手術の待機期間が長期になっていた。検査数が増えたことで手術待機となっていた患者が減り手術件数が増えた。また肛門科外来の診察時間にゆとりができ、業務時間内に診察を終えられるようになった。以前に検査を行っていた看護師は、業務分担によりその他の排便ケアやストーマ外来業務を行える時間が増えたと喜ばれた。

【今後の課題】現状よりも検査数の拡大を図るために、他の通常業務に影響しないよう運用を模索していく必要がある。

【結語】今回のタスクシフト/シェアにより医師の働き方改革に寄与することが分かった。業務が改善したことにより間接的ではあるが病院の収益増加につながった。